

2016. 2 NEWS

GAKU—TO—KEN

学図研・東京支部

NO. 288

今月の目次

- ・ 拡大支部会報告 1



《拡大支部会報告》講演録 1月23日(土)、於・玉川聖学院1F会議室

「学校図書館から始めるアクティブ・ラーニング」

～世界を楽しむための知的好奇心を持とう！～

講師 梅澤貴典さん(中央大学職員) 参加者 45人

大学図書館職員としての豊富な経験を持ち、世界各地の図書館を多数見てきた梅澤さん。各大学で始まっている「アクティブ・ラーニング」が、どのように実践されているか、ご自身が非常勤講師として担当している他校の新生向け授業も含め、具体的に話していただきました。濃密な2時間の講演内容から、サマリーをお届けします。(報告・佐藤敏子)

◎図書館員として「ノーモア・オボカタ」に至るまで

16歳の夏からバックパッカーで海外を歩く。憧れだった世界最古にして最大のアレクサンドリアの図書館にも訪れた。青山学院大学での学生時代は、昼間は大学図書館に学生雇員として働き、夜間に英米文学科で学ぶ。大学の図書館員としての仕事に手ごたえを感じ、1995年に大正大学で司書資格を取得した。卒業後、1997年に中央大学の職員となり、現在に至っている。今は図書館から異動し、学事課副課長として勤務している。2001～2008年の7年間を理工学部図書館に勤め、電子図書館化と学術情報リテラシー教育を担当した。大学生に限らず、図書館との出会いとなる第一時間目に相手のハートをわしづかみにできるかどうかで全てが決まるのだが、小学生キャンプ引率ボランティア時代に培ったゲーム指導のスキルを活かし、聴き手の心と目をこちらに向かせる。受講者アンケートの満足度は高く、好評を得ている。2004年に、私立大学図書館協会の派遣により米国イリノイ大学で学び、ライブラリアンの質の高さに驚いた。彼らは、それぞれが専門分野を持ち、修士号や博士号を取得している上に、図書館情報学の学位や修士の学位も持っていて、学生たちに名前と専門分野・メールアドレスや電話番号も公開して、図書館は24時間体制で学生の支援を行う。米国の大学は卒業するのが難しく、学生たちは必死に勉強する。図書館に行けば、相談内容や分野に応じた専門のライブラリアンが対応してくれる。そんなライブラリアンたちも、新学期にはひょうきんな出で立ちで、新生相手には図書館ツアーに勧誘する。そして、ものの調べ方や、情報の取り方、本作り体験までさせて、図書館利用や情報に関するスキルを1年生に徹底的に教え込むという。

その後、梅澤さんは大学図書館の存在感の低下に危機感を抱き、大学図書館職員の専門性向上策を立案しようと2006～2008年に東京大学大学院の大学経営政策コースに進み、修士課程を修了し、2012年から東京農業大学大学院で「情報処理・文献検索」(英語による)の講義を、2013年から都留文科大学で「アカデミック・スキルズ」の講義を受け持つようになった。学習と研究における学術情報の重要性を訴えるべく、「ノーモア・オボカタハルコ」を目指して。

◎大学新生向けリテラシー教育の実践事例

都留文科大学で受け持つ「アカデミック・スキルズ」と「図書館情報技術論」は、それぞれ15回2単位3日間ずつで行う集中講義である。初日初回は、「大学で学ぶこととは」について、たとえ話を交えながら話し、学生たちがいかに恵まれた環境にいるかを知らせ、学ぶ動機づけをする。例えば、「読売の新聞記事を過去100年分、朝日新聞を過去100年分、キー

ワード1つで読み放題なんだ。さまざまな事典も、学術情報も世界最新の論文も君たちは見放題だ。ただし、それらは全て有料で、大学が〇〇万円ものお金を払って、契約している。ちゃんとした情報は有料なんだ。スマホでただで手軽に入手できる情報は表層 Web と言って、Web 情報全体のごく一部だし、見せたい人が見てもらいたくてタダで載せている。また、学問に必要な専門書は1冊何万円もするものもあって個人で買うには限界があるが、大学図書館はそういう書物も大量にそろえて、君たちはただで借りることができるんだ。それを使わない手はないだろう。それは、「デパートの最上階にある無料の超高級料理食べ放題ラウンジには行かず、わざわざ地下階に降りて行って試食をしたり、通路に落ちていた得体のしれないものを、時には腹を壊しながら食べて、それでいいと思っている」と同じなんだ。」などと言って、教室を笑いの渦に巻き込み、学生たちの目を開かせる。

講義の目的は大学での学習・研究の基礎的な方法（アカデミック・スキルズ）を学ばせることと、学びの動機づけとなる問題意識を形成すること。それには、学生に「自分たちが考える、大学をよくするためのアイデア」を立案・提言するという課題を与え、一人一人がKJ法で意見をまとめ、整理し、自分のアイデアのひとつひとつに裏付けとなる情報をつけて発表させる。身近な1つのテーマで実際に探究させることにより、学生たちはアカデミック・スキルズを実践的に理解する。

授業は、「大学で学ぶこと」の次に、「調べる—まとめる—発表する」流れの中で、様々なスキルがあることを説明する。調べるとは「信頼できる情報を集めること」であり裏付けを取ることであり、ここは、図書館の出番である。ちなみに、NDC の話をすると、同じ番号のところと同じテーマの本が並んでいることを初めて知って感動する学生もいる。OPAC の説明、大学でアクセスできる、ジャパンナレッジをはじめとする各種データベースの紹介では、「おお」と感動する声さえ上がることもある。

ネットで、「千と千尋の神隠し 舞台」と検索すると、台湾の九份の^{きゅうぶん}写真が多数出てくる。その画面を見せた上で、それが間違いであることを「スタジオジブリ」の「Q&A」の画面を見せて証明し、いかに、ネット情報が当てにならないものか、会場を納得させる。同時に、勘違いしていた相手を傷つけないようにフォローすることも大切にしているという。次に、オックスフォード大学の食堂の画面を見せて、「ハリー・ポッター」の舞台を連想させ、日本語では正確な出典が出ないのに、英語で検索し直すとその食堂がモデルとなった確かな証拠（大学のホームページ）出てくる。このことから、検索言語を日本語から英語に替えることで、得られる情報が10倍に増えることも教える。

◎カナダの大学図書館から学んだ「頼れる図書館」づくり

一方、図書館の本は確かに過去の知識で最新ではないが、これらのような先人の研究を踏まえて練られた基礎知識に価値があり、読む中で、自分の中に自然と情報の価値基準が形成され、質の高い情報とそうでない情報を見分ける目が育つ。その上で学術論文にあたることが大切だ。

図書館利用教育は情報活用教育である。それは、学生にとって、知っていると知らないとは大違いの学生生活になり、ひいては、歩んでいく人生も違ってくると訴えた。

クイーンズ大学の図書館には、45時間の研修を受けた大学院生 Teaching Assistant (TA) がカウンターで質問の7割に対応し、高度な質問だけは専門のライブラリアンに引き継ぐ。

また、無料の各種ワークショップを開催して学生の困りごとの解決を図る。論文執筆やビジネススクールのサポートも行うなど、日本にも参考にできる面が多い。日本において、図書館は頼れるという認識を広めることが、大学自体の知的な弱体化に歯止めをかけ、情報リテラシーのレベルを上げ、学生たちが豊かな人生を送ることにつながる。

講演は楽しく分かりやすく、2時間が短く感じられ、更に会場からの質問も続きました。話し手自身が楽しんで話すことが、相手に楽しく伝える秘訣だという言葉も印象的でした。

《拡大支部会 感想》

拡大支部会にご参加いただいたみなさんからの感想です。

- ・情報収集能力→再生産性向上のお話が、学校図書館活用ALのカギだと思いました。
- ・とてもよかったです。わかりやすく今の図書館に足りないもの、これからやらなくてはならないことを考えさせられました。先生のお話を聞いて、図書館員はサービス精神に欠けている人も多いのかな？と思った。利用者のこと、経営者から図書館を認められることの大切さも考えたい。
- ・みっちりした内容でした。この内容を活用できるよう、活動できるといいと思います。
- ・聞いた直後は（いつもそうですが）すごく元気になります。元気が消えないうちに、もう一度かみくだいて消化吸收しようと思います。周囲への発信を、もう一度考えて実践しないといけませんね。
- ・自分をもっと学んだりしないと・・・いつも思ってしまいます。いろんなDBとかも何回も紹介していただいているのにまだ見てなかったりするし。
- ・子どもたちにだんだんと小保方さんが通じなくなってきたら使えなくなるなと思うけれどまだ大人は通じるので、通じている間に使って学校図書館が変えられたらと思った。
- ・小学校・中学校に司書が入って子ども達の学びが豊かになってきている所が増加していますが、大学生社会人は未だ図書館を使えない人がたくさんいます。豊かで楽しい話の中でこんなことを感じました。
- ・情報活用教育こそ企業（図書館メーカー）がもっと学ばなければいけないと思いました。社内での活動にもっと情報を正しく使い、説得力のある商品開発をしていきたいと思いました。
- ・語るべきものを持った人が、語るためのスキルを駆使して、情熱をもって語ると、こんなにエキサイティングな話になる、ということです。素直に、ノーガードで聞いていましたが、けっこうなパンチをくらいました。
- ・導入の仕方、言い方の大切さ。図書館を使うと便利ではなく、あなたの〇〇をより豊かにするために図書館を使うと便利、なんですね。beyond googleが印象的でした。
- ・2回目でしたが、新しいお話もあり、興味深かったです。正しいことをつまらなく説明しては、相手の胸にひびかない・・・その通りだと思います。しっかり自分も知識をもち、それをどう伝えるか、工夫が大事だと思いました。
- ・ガイダンスに何で図書館を使うのかを入れるのはすごく有効だと思いました。話し方、教

え方もすごく大切だと改めて感じました。

- ・あっという間の2時間でした。図書館ガイダンスは重要だと思いますが、はじめに学生の心をグッと掴むというのは、難しそうだと思います。
- ・充実したとてもわかりやすい講演でした。自分に置きかえて、今、そしてこれから何ができるか考えながらあっという間でした！！ またぜひ梅澤さんのお話伺いたいです。
- ・分かりやすい意欲あふれる内容でした。
- ・本当に参考になる、勉強になる講演でした。次回もこうした勉強に参加したいです。ありがとうございます！
- ・おもしろく、興味深く、でも一生懸命くいつくような気持ちでできました。もう少し時間をかけてゆっくりレクチャーうけたかったです。リタイアしつつある私は社会人入学して講義をうけて、改めて学校図書館のために役立ちたいものです。ありがとうございました。(でもついていけないかなとも思いつつ・・・)
- ・すごいすごいときいていた梅澤さんのおはなしを楽しみにしていましたが、うわさにたがわないいお話でした。人間としての魅力のある方からきくと情報リテラシーの話も重みがありますね。
- ・「財布のヒモを握っているのは誰か？」自分のやりたいことを進めるにあたって一番大切なことですね。ここにアピールすることを心がけたいと思います。

<ご意見・ご要望> 今後の支部会の参考になりそうなものをご紹介します

- ・データベース研修を受ける必要性を感じた。
- ・大学&学校図書館で”使えるデータベース””データベースの使われ方”をテーマにしたお話も聞きたいです。